

大江山地区 第2回ワークショップの概要

《地域課題を解決するために大切にしたい視点》

1. 誰もが自分らしく活躍できる（福祉・高齢者・若者・居場所）
2. ビジネスの挑戦を応援する（産業振興）
3. 心も体もウキウキ動きたくなる（スポーツ・健康）
4. 学びあい成長を喜びあえる（子育て・教育・生涯学習）
5. 持続可能にする 財政負担を減らす（空き空間・部屋の利活用・アクセスしやすい立地・財源生み出す）
6. 人とのつながりで安全・安心を守る（防災・セーフティネット）
7. 新しい技術で生活を便利にする（IT・暮らし）
8. 歴史・文化を守り創造する（文化・芸術・祭り・イベント）
9. 大江山のシンボルとして拠点になる（地域の一体感）

◆1.誰もが自分らしく活躍できる(福祉・高齢者・若者・居場所)

子どもから高齢者まで住民同士が交流できる機能を大切にしたい。多世代交流のレクリエーションや茶の間などを開催できる場を残してほしい。

- （農改センター）公民館機能があるとはいうものの、亀田地区公民館の分室のような形で残っているだけで、ほとんど公民館としては機能していない。一番重要な事は、住民同士のコミュニケーションが取れる機能である。
- （農改センター）高齢者のお茶の間を定期的を開く。計画担当者はお元気な高齢者に依頼。
- 農改センターをもっと幅広い年代で利用できる方法を考えられないか？
- 高齢者だけでなく、多世代交流の茶の間を農改センターで開催してはどうか。調理、会食、ゲーム、レクリエーションなどを行う。

- (農改センター) 子どもと高齢者のコミュニケーションが少ないので、交流できる場を設ける。
- 憩の家はまだ使える建物であり、多世代交流の場にする。子育て支援の場と高齢者の活動の場が共有されることで、交流や支援の場が生まれる。
- 一人である高齢者にとっては、家の近くにあって歩いていける地域のお茶の間や老人憩の家などは近所の人や知り合いと話ができる憩いの場として必要。
- 地域のお茶の間としてのコミュニティがあるとよいので、地区全体の配置を考える。

高齢者が得意料理を教えたり、子どもたちに昔話を聞かせたりするなど、みんなが自分らしさを発揮し、活躍できる場を設ける。

- (農改センター) 自己肯定感を持てる場所、自分がここにいていいと思える役目を果たせる場や機会をつくる。
- (農改センター) 高齢者から教わる教室を開く。昔話、得意料理など。
- (農改センター) (憩の家) 地域の茶の間を日曜に開催し、子どもたちも参加できるようにする。

農改センターや憩の家は、施設利用のPRに力を入れる、若い世代も利用しやすい名称に変更するなど、誰でも利用しやすい施設にしてほしい。

- (農改センター) (憩の家) 住民向けに農改センターや憩の家の施設のPRをもっとした方がよい。どうやったら使えるのか、利用料はいくらかなど、わからない人が多い。憩の家は名称を変えて、高齢者以外も利用できるようにするとよい。
- (農改センター) 施設名称を変更する。例えば若者にアピールできて、知ってもらえて気軽に使える、江南区福祉センターの名称「きらとぴあ」など。
- (憩の家) 老人という名前がよくない。せめて高齢者。若者も対象者にする

のであれば名称の変更をする。

- 農改センターは、存在や、どういう施設でどんなことが行われているのか住民全員に知られていない。
- (図書室) 住民が自宅から本を持ち寄る仕組みも取り入れたい。
- (農改センター)(図書室) 高校生にとっては、ここで部活ができるわけでもないし、この施設を利用する動機がない。利用はせいぜい図書室くらいのものだ。高校生も自由に使えることを伝えたい。

農改センターには多世代が利用できる多目的な機能を集中させたり、有料化したりする方が維持管理コストを抑えられるのではないか。

- どんなイベントにも使える多目的ホールは今後もさらに利用価値が増える。ここだけは残してもらいたい。
- 農改センターを多目的総合施設に建て替える。
- 農改センターへの機能集中と機能アップ。コミュニティ施設は、地区に1つとなっているので、大江山地区は農改センターに機能を集中する。その方がコストを抑えられるのではないか。
- 農改センターを有料化する。
- 憩の家が廃止されるなら、全ての機能を農改センターで代替利用できるようにする。その際、これまでの利用者が利用しやすい工夫を検討してはどうか。

農改センターはスリッパでなく土足で入れるようにし、トイレは広い洋式にするなど、誰でも使いやすく整備する。

- 施設、運営とも住民に「やさしく」「気軽に使える」施設にする。
- 子ども、高齢者、だれでも使いやすい施設として、トイレを広くして、全部洋式にする。
- スリッパは危ないので、土足でどこでも入れるようにする。

農改センターや憩の家は、誰でも気軽に公平に利用できるように、若い世代の意見を聞きながら利用規定や管理体制を整え、利用者を増やす。

- (農改センター) 利用規定を見直して、利用者を増やす。過去に健康のために施設内を歩こうとして、管理人から禁止されるなど利用者にやさしくない。
- (農改センター) 気軽に入れない雰囲気がある。
- (農改センター) 施設は必ず予約が必要など、一般に開放されていない。限定された時期(第何曜日とか)や期間でもよいので誰でも使える時間があるとよい。
- (農改センター) 大江山地区の企画を担当する主事さんのような存在(面倒見の良い管理者)が必要。地域の要となる人材を配置してほしい。
- (憩の家) 現在、各自治会によって活動に差がある。施設の大きさによるのかもしれない。
- (憩の家) 指定管理者制度をしっかりと作り、持続可能な運営にする仕組みづくりが必要である。
- 憩の家など(地域活動に必要な施設)の使い方は、これから施設を使う若い人たちを対象にした話し合いで、5年10年先を考えていくことが大切で必要である。

図書室には学習室や、子育て中の親子や高齢者向けの読み聞かせの場など、幅広い世代が安心して過ごせる明るくて広い居場所が必要。

- 図書室は、長期休みの子どもの学習室に利用できるのでは?
- 子育て中の親子や高齢者向けの読み聞かせの場にする。
- 子どもたちの学習室や読み聞かせの場にする。居場所が必要。今の図書室の場所にこだわらない。
- 子どもから高齢者まで、安心して過ごせる街にしたい、子どもが増えてほしい、大江山で子どもたちが健やかに育ってほしいという未来像に対して、今、

大江山に欠けていることの一つとして、図書室・子育て支援・子どもの居場所が挙げられるので、農改センターにその機能を充実させたい。

- 親子で本を楽しむ場所があれば良い。
- 図書室のスペースを広くする必要あり。明るく広い図書室がよい。

図書室の場所はわかりづらいが、立地は大江山の中心でよい。

- 現在は、農改センターの中にあることも知られていない。場所も奥で暗くてわからない。
- 立地は、大江山の中心で現在の位置が良い。

憩の家の風呂はやめて民間の温浴施設を利用してもらうのはどうか。

- 温泉、お風呂はある程度のグレードを求めて、お金を払っても民間のサービスのいいところへ行く。憩の家のお風呂へは行きたいと思わない。憩の家の風呂はやめて民間の温浴施設を利用してもらおう。

◆2. ビジネスの挑戦を応援する(産業振興)

大江山の農産物を販売する朝市ができるスペースや、地区内の店舗や事業所が経済活動を行える場所を農改センターや憩の家に確保してほしい。

- 大江山はイチゴや野菜等の生産が盛んで、朝市をやっている拠点複合施設(農改センター)の中にそのスペースを確保してはどうか。
- (憩の家)風呂の機能にプラスして収益性を上げる。例えば、地場産の野菜販売、障がい者支援施設で作成する物品の販売などの工夫をする。
- 地区内を全体的に見渡すと、店舗や事業所など経済活動の場所の確保が今後課題になると思う。農改センターがそうした場のひとつになれないか？

- (農改センター) 亀田の織物のように、大江山を前面に出した商品開発ができるとうい。
- 地区内の店舗数が徐々に減少しているところが気になる。

法人税の負担率を減らし、儲かる企業を増やし、優良企業の誘致を行う。

- 財政負担軽減よりも、法人税の負担率を減少し、儲かる企業を増やすのがよい。
- 市を潤す優良企業の誘致を至急行うなどするのもよいだろう。

◆3.心も体もウキウキ動きたくなる(スポーツ・健康)

農改センターの多目的ホールを残し、予約なしで使える開放日や時間帯を設けて利用しやすくする。

- 農改センターをスポーツで利用しているので、今の機能をちゃんと残してもらいたい。
- 多目的ホールを気軽に使える仕組みをつくる(開いている時間、自由に使える曜日等)。

他地区のコミュニティハウスでは小さいスペースで卓球をしている。研修室などの小スペースでも多様な使い方をできるようにする。

- 他地区のコミュニティハウスでは小さいスペースでも卓球ができていたので、研修室などの小スペースでも多様な使い方をできるようにする。

地区内の公園や桜並木を活かし、ウォーキングコースやマップを作成し、大江山全体を歩いて楽しめるようにする。

- ウォーキングマップを作製する。地図に「亀田駅から0km」など主要施設からの距離を表示して楽しみをつくる工夫をする。
- 桜並木を遊歩道として利用できるようにしたい。大江山全体をウォーキングコースにできそうである。桜並木の樹、用水路の整備、ぼんぼりの設置と管理が大変。地域で考えていきたい課題である。
- 地区内の公園（北山池、大江山公園、阿賀公園など）の有効活用が出来ていない気がする。

農改センターで開催されてきた文化とスポーツの祭典を継続したい。

- 文化とスポーツの祭典をもっと認知してもらい、継続していきたい。コロナ禍で縮小されているが、これまで農改センターを会場に大々的に行われてきた。商店街の協力による出店などもあり賑わってよい。
- 学校開放、スポーツの祭典を開催する。

一人暮らしの高齢者にとっては、歩いていける距離に人と話せる場があることが必要。

- 一人でいる高齢者にとっては、家の近くにあって歩いていける地域のお茶の間や老人憩の家などは近所の人や知り合いと話ができる憩いの場として必要。

高齢者と子どもの交流の場をつくり、元気が出る場所にする。

- （憩の家）前回と今回に出たアイデアを取り入れて高齢者と子どもの交流の場とする。それによって元気がでる場所にする。

◆4. 学びあい成長を喜びあえる(子育て・教育・生涯学習)

子育て機能が不足しているので充実させる。子どもが遊ぶスペース、保育相談や親同士が交流できる場所と仕組みが必要だ。

- 子育て機能が地区に不足しているので充実させる。具体的には3つ①保育相談（週一など定期的でもよい）②子どもが遊ぶスペースを設置する③親同士の交流ができる場所と仕組み。
- 子どもから高齢者まで、安心して過ごせる街にしたい、子どもが増えてほしい、大江山で子どもたちが健やかに育てほしいという未来像がある。今、大江山に欠けていることの一つとして、図書室・子育て支援・子どもの居場所が挙げられるので農改センターにその機能を充実させたい。

農改センターや憩の家に子どもが過ごせる場や世代間交流できる機会を設けて、子どもたちには地域の中に学びの場があることが大切。

- 子どもたちにとって地域の中（学校以外）に学びの場所があることが大事。
- かめっこクラブは遠いので、近くで子育て支援を充実させてほしい。参加できる曜日を増やしてほしい。
- 小学校は空き教室がない。子どももボランティアの人も受け入れる場がない。子どもは増えており、預ける場や子どもの居場所が今後ますます必要になる。農改センターに子どもを日曜に預けられる場を設ける。
- （農改センター）（憩の家）地域の茶の間を日曜に開催し、子どもたちも参加できるようにする。
- 若年層の人がもっと農改センターを利用するように、子どもの遊び場や自習室をつくる。利用者の増加と世代間交流の促進を図る。
- 農改センターを多目的総合施設に建て替える。

ひまわりクラブの過密な環境を改善することが必要。

- ひまわりクラブの建物を大きくしてほしい。今ある2つはどちらも狭くて過密状態だ。
- 小学校の敷地内に今よりも大きなひまわりクラブの施設をつくってほしい。
- ひまわりクラブは小学校と併設していないと意味がない（子どもが歩いている場所であることが大事）なのでひまわりクラブを農改センターに設けるのは難しい。

農改センターに、高齢者から学ぶ場、多世代交流できる場があるといい。

- 高齢者の方から教われる教室を開く。昔話、得意料理など。
- 子どもと高齢者のコミュニケーションが少ないので、交流できる場を設ける。
- 高齢者のお茶の間を定期的に関く。計画担当者は元気な高齢者に依頼。
- 高齢者だけでなく、多世代交流の茶の間を農改センターで開催してはどうか。調理、会食、ゲーム、レクリエーションなどを行う。

生涯学習に関する情報発信を行い、活動の交流を促し、支援する公民館の機能が必要。

- 活動団体（様々な団体があるが、公民館活動としての団体も含めて）の交流が必要。
- 生涯学習は公民館の機能（生涯学習に関して多世代へ広く情報発信して、活動を支援する）が生かせれば行える。

公民館の利用者に意見をもらい、集いやすくしたい。

- 公民館活動を表（もっと力を入れる）に出して、利用者の団体・個人に意見をもらい大江山全体の人が集えるようにしたい。

図書室はテーブルとイスがあれば今の部屋でなくともよい。学習室や読み聞かせの場など、多世代が利用できる明るくて広い居場所としての機能が必要。

- 図書室機能を充実させる。学習スペースを設置。自由スペースと一体で話し声が聞こえてもよい。テーブルとイスがあればよい。
- 子どもから高齢者まで、安心して過ごせる街にしたい、子どもが増えてほしい、大江山で子どもたちが健やかに育ってほしいという未来像に対して、今、大江山にかけていることのひとつとして、図書室・子育て支援・子どもの居場所が挙げられるので農改センターにその機能を充実させたい。
- 親子で本を楽しむ場所があれば良い。
- 図書室のスペースを広くする必要あり。明るく広い図書室。
- 図書室の利用者数が少ない。図書室でなく学習室でいい。今の場所は分かりにくいので今の場所ではなくてよい。
- 図書室は、長期休みの子どもの学習室に利用できるのでは？
- 子育て中の親子や高齢者向けの読み聞かせの場にする。
- 子どもたちの学習室や読み聞かせの場にする。居場所が必要。今の図書室の場所にこだわらない。

図書室の蔵書を増やし、新刊を揃えてほしい。

- 子どもから高齢者まで、安心して過ごせる街にしたい、大江山で子どもたちが健やかに育ってほしいという未来像に対して今、大江山に欠けていることの一つである図書館機能を充実させる。本を多くする、新刊をそろえる。入れ替えをする。

図書室が現在ある場所はわかりづらいが、立地は大江山の中心にあってよい。

- 現在は、農改センターの中にあることも知られていない。場所も奥で暗くてわからない。

- 図書室の立地は、大江山の中心で現在の位置が良い。

農改センターはスリッパでなく土足で入れるようにし、トイレは広い洋式にするなど、誰でも使いやすく整備する。

- 施設、運営とも住民に「やさしく」「気軽に使える」施設にする。
- 子ども、高齢者、誰でも使いやすい施設として、トイレを広くして、全部洋式にする。
- スリッパは危ないので、土足でどこでも行けるようにする。

農改センターは、誰でも気軽に公平に利用できるように、若い世代の意見を聞きながら利用規定や管理体制を整え、利用者を増やす。

- 利用規定の見直しをして利用者を増やす。過去に健康のために施設内を歩こうとして、管理人から禁止されるなど利用者にやさしくない。
- 気軽に入れにくい雰囲気がある。
- 施設は必ず予約が必要など、一般に開放されていない。限定された時期（第何曜日とか）や期間でもよいので誰でも使える時間があるとよい。
- 大江山地区の企画を担当する主事さんのような存在(面倒見の良い管理者)が必要。地域の要となる人材を配置して欲しい。
- 中学生や地域のいろいろな人が利用できる施設と運営にする。

農改センターや憩の家を若い世代も利用できるようにして、名称を変更するなど、誰でも自由に使えることをPRしてはどうか。

- (農改センター)(憩の家)住民向けに農改センターや憩の家の施設のPRをもっとした方がよい。どうやったら使えるのか、利用料はいくらかなど、わからない人が多い。憩の家は名称を変えて、高齢者以外も利用できるようにするとよい。

- (農改センター) 名称変更する。例えば若者にアピールして知ってもらえて気軽に使える、江南区福祉センターの名称「きらとぴあ」など。
- (農改センター) 農改センターの存在やどういう施設で、どんなことが行われているのか住民全員に知られていない。
- 公民館の活動や支援が知られていないのは、働きかけが少ないことが原因、そこを変えていく必要がある。

◆5. 持続可能にする 財政負担を減らす(空き空間・部屋利活用・アクセスしやすい立地・財源生み出す)

農改センターや憩の家は施設維持費の増大や利用者の減少が気になる。利用料の徴収や、利用しやすい仕組みづくり、稼げる企画を民間に委託するなどしてはどうか。利用者を増やし、今ある機能は全て残したい。

- (農改センター)(憩の家) 全体的に、施設運営経費の増大や利用者数の減少が気になる。
- 農改センターは利用団体から料金をもらう(条例を改正する必要あり)。
- 電気料金などを使用する人が負担することは、利用者は納得できる。地区内外の利用者で利用料に差をつけることも検討する(現在は条例で市内は無料)。
- (農改センター) 利用者を増やし、今ある機能は工夫して全て残す。
- (農改センター) 土日や夜は施設に行っても、常連の利用者が独占しており、なかなか利用できない状況になっている。現利用者はできるだけ平日の日中に使うといった新しい住民への配慮が必要。
- 自治会の集いで農改センターを活用する。
- 農改センターで稼げる企画を民間にやってもらう。
- (憩の家) 風呂の機能にプラスして収益性上げる。例えば、地場産の野菜販売、障がい者支援施設で作成する物品の販売などの工夫をする。

農改センターの駐車場は大きなイベント開催時に不足する。駐車場の規模を検討し、柔軟な運用ができるようにしてほしい。周囲の樹木の剪定や白線の引直しなど、場所や駐車位置を分かりやすくすることも必要だ。

- 駐車場は大きなイベントがあるときに足りなくなることがある（年に1～2回程度）。日常では何も問題はない。
- 裏の駐車場がわかりづらい。特に新しい住民が戸惑っていることがある。
- 駐車場は樹木が伸びているためにわかりづらくなっている。剪定が必要だ。
- 駐車場がわかりにくい原因の一つが消えかかった白線にある。白線を引き直せば改善できる。

図書室は住民が本を持ち寄る仕組みを取り入れたい。シルバー人材センターを活用していること自体は問題ない。

- 住民が自宅から本を持ち寄る仕組みも取り入れたい。
- シルバー人材センターを活用していること自体は何も問題はない。
- 以前から比べると本の整理が上手くされていないような気がする。

新潟市の図書館システムを活用できれば、蔵書機能はなくても学習室があればいい。

- 市の図書館システムを活用し、本の取り寄せ機能を充実させてもらいたい。それが実現できれば図書室はなくても大丈夫。ちょっと本が読めるような学習室さえあればいい。

施設を減らし集約することは必要だが、農改センターや憩の家は、送迎バスを整備するなど、アクセスしやすい交通手段の確保が必要。

- （農改センター）（憩の家）施設の数減らして集約は必然。地区内公共施設の利用者は児童と高齢者なので、交通手段の確保が課題。持続できる見込み

のない施設は広域で利用できる環境（交通手段）づくりが必要。

- 江口、西野など農改センターから遠い地区は、送迎バスなど人の移動手段や、乗合で行き来することが必要。
- 憩の家が地区に2カ所あるのは大江山くらい。大江山は細長いので1カ所にすると歩いて行ける距離でなくなる。

憩の家を幅広い年代で利用できるよう、コミュニティ施設と一緒にした複合施設に再編する。

- 憩いの家を幅広い年代で利用できるよう、コミュニティ施設と一緒にした複合施設に再編する。

大江山農協の施設跡に住民が活動できるホール施設をつくり、自治会館も併設する。

- 大江山農協の施設跡を有効活用して、住民同士が様々な用途で利用できる大ホールをつくる。また、ホールを小割り活用できる設備を設けて自治会館機能も併設する。

市の主要施設を8区に分散して建てるのはどうか。図書館、スポーツ施設などは市内に1施設ずつにすれば、経費削減できる。図書館はネット利用と安価な宅配集荷サービスがあれば渋滞の緩和にもなるのではないか。

- 市の主要図書館等の施設を区で分散してはどうか。不便は皆同じでは。図書館は〇〇区、スポーツ施設は△△区などに分散させることで、施設の建物は1つで済み、人件費も削減できる。図書館などはデータベースで集約された本をネットや電話で借り、安価で宅配・集荷してもらうなどすれば、渋滞の緩和にもなるのではないか。

憩の家はどのような利用ができるのか、知る必要がある。

- どんな利用ができるのかを知るために、もう少し積極的に見学会を行う必要がある。

◆6. 人とのつながりで安全・安心を守る(防災・セーフティーネット)

一人暮らしの高齢者が気軽に歩いて立ち寄れる地域の茶の間のような場所は必要だ。

- 一人でいる高齢者にとっては、家の近くにあって歩いていける地域のお茶の間や老人憩の家などは、近所の人や知り合いと話ができる憩いの場として必要。
- (憩の家) 男性の利用については、何か具体的な目的があれば行きやすくなる。例えば、将棋や健康相談など。
- 憩の家が地区に2カ所あるのは大江山くらい。大江山は細長いので1カ所にすると歩いて行ける距離でなくなるので残した方がよい。
- 地域のお茶の間としてのコミュニティがあるとよいので、地区全体の配置を考える。

使い方や名称を若者にも考えてもらい、憩の家を子育て世代や若者も使える場所として活用するとよい。

- 憩の家はまだ使える建物であり、多世代交流の場にする。子育て支援の場と高齢者の場が共有されることで、交流や支援の場が生まれる。
- 前回と今回出たアイデアを取り入れて高齢者と子どもの交流の場とする。それによって元気がでる場所にする。
- 憩の家など地域活動に必要な施設の使い方は、これから施設を使う若い人た

ちを対象にした話し合いで、5年10年先を考えていくことが大切で必要である。

- 老人という名前がよくない。せめて高齢者。若者も対象者にするのであれば名前の変更をする。
- 現在、各自治会によって活動に差がある。施設の大きさによるのかもしれない。

農改センターに防災拠点機能も集約するなら、老朽化している建物を早急に建て替える必要があるのではないか。地区全体で災害時を想定した避難計画や情報共有について検討するとよい。

- キッチンなどの設備があることから、防災拠点を設置する。
- 防災拠点など、複合施設としていろいろな機能を農改センターに集約するのであれば建物も老朽化（雨漏り、建物劣化など）しており、早急な建て替えしかない。
- 災害時の情報として大江山地区に関する防災ITがあると良い。
- 災害が起きたとき、今の小中学校が避難所になっているが、そこだけでいいのか地区全体をみた計画が必要。（高齢者が歩いていけるのか）。
- ITが使えない高齢者たちを対してスマホ教室などの技術指導が必要となる。交流も生まれる。
- LINEはすぐに災害時の情報を共有できるので有効である。

大江山は安全な地域だと思うが、防犯カメラの設置や、登下校の見守りや「あいさつ運動」を続けていくのがいいだろう。

- 大江山は安全と思うが防犯カメラなどが必要だと思う。
- 現在行っている「あいさつ運動」を続けていく。
- 登下校時に毎日、校門等で見守りをしたらどうか？

◆7. 新しい技術で生活を便利にする(IT・暮らし)

農改センターや図書室などの利用、災害時の地域の情報共有を IT 化する。IT 利用が苦手な人にはサポートをする。

- 全ての施設の予約をインターネットでできるようにする。
- 農改センターや図書室の利用は IT 化し、ネット予約を使う。
- 書籍をコンピューターで検索できるようにする。
- インターネット利用方法の説明会や勉強会を開く。
- 不便をなくすため IT 活用を進めると共に、IT 機器の使い方をサポートする。
- インターネットの使用にはお金がかかり、利用できない人もいる。公平性の点で問題がある。
- IT が使えない高齢者たちに対してスマホ教室などの技術指導が必要となる。交流も生まれる。
- LINE はすぐに共有できるので有効である。
- 災害時の情報として大江山地区に関する防災 IT があると良い。
- 地区の情報は回覧ではなく IT でおこなう。

新潟市の図書館貸出サービスをネットで利用し、民間の宅配サービスで本の取り寄せや返却ができれば、図書室はなくてもよい。学習室などの居場所があればいい。

- 新潟市の図書館の貸し出しサービスをどこでも使えるようにし、ネットで利用できるようにする。ネット予約+民間の宅配サービス利用で OK。
- 市の図書館システムを活用し、本の取り寄せ機能を充実させてもらいたい。それが実現できれば図書室はなくても大丈夫。ちょっと本が読めるような学習室さえあればいい。

◆8. 歴史・文化を守り創造する(文化・芸術・祭り・イベント)

地域のイベントや祭りなどは継続していきたい。地区を上げて祭りを開いてはどうか。

- (農改センター) 文化とスポーツの祭典をもっと認知してもらい、継続していきたい。コロナ禍で縮小されているが、これまで農改センターを会場に大々的に行われてきた。商店街の協力による出店などもあり賑わってよい。
- 文化などの活動は活発な地域で、祭りはこれまで継続してやってきている。それを続ける。
- 集落ごとにやっている地域行事や年中行事を集約してはどうか。
- 地区を上げて「大江山まつり」を開いてはどうか。

高校生も農改センターを自由に使ってほしい。

- (農改センター)(図書室) 高校生にとっては、ここで部活ができるわけでもないし、この施設を利用する動機がない。せいぜい図書室くらいのものだ。高校生も自由に使えることを伝えたい。

大江山のガイドを増やしたい。特に子どもたちが自分の地域を知って自慢できるようになるとよい。

- 大江山地区のガイドを現在一人でやっている。今後は、ガイドを増やしていきたい。特に各地区などで子どもたちがやってくれればよい。自分の地域を知って自慢できるようになるとよい。

世代交流を活性化する話し合いの機会をつくってはどうか。

- どうしたら世代間のコミュニケーションを活性化できるか話し合う機会をつくる。

◆9. 大江山のシンボルとして拠点になる(地域の一体感)

農改センターに愛称をつける、スポーツの祭典を行う、イベントを行う、防災拠点とするなど地域の核になる施設として活用する。

- (農改センター) 施設に愛称をつける、或いは名称変更を行うことに関しては、公募することで、新たな利用者が増えたり、興味を持ってくれる人が増えたりする可能性があるということが大切だ。
- (農改センター) 文化とスポーツの祭典をもっと認知してもらい、継続していきたい。コロナ禍で縮小されているが、これまで農改センターを会場に大々的に行われてきた。商店街の協力による出店などもあり賑わってよい。
- コミュニティ協議会から「かたりべ」「落語」の案内があったが、興味がある。このような催しは農改センターを会場として利用するといいい。他のイベントも増やしてほしい。
- キッチンなどの設備があることから、防災拠点を設置する。
- (図書室) 立地は、大江山の中心で現在の位置が良い。

大江山には地域の核となる施設やシンボルがないのではないかと。新旧の住民が交流できる方策があるとよい。

- 大江山には地域の核となるような施設やシンボルがない気がする。強いて言えば中央卸売市場か。
- 中央卸売市場の使い方を住民向けにわかりやすく発信してほしい。
- 新たな住民が増えている。新旧の住民が交流できる様な方策があるとよい。

世代交流を活性化する話し合いの機会をつくってはどうか。

- どうしたら世代間のコミュニケーションを活性化できるか話し合う機会をつくる。

農改センターはスリッパでなく土足で入れるようにし、トイレは広い洋式にするなど、誰でも使いやすく整備する。

- 施設、運営とも住民に「やさしく」「気軽に使える」施設にする。
- 子ども、高齢者、誰にでも使いやすい施設として、トイレを広くして、全部洋式にする。
- スリッパは危ないので、土足でどこでも行けるようにする。

農改センターや憩の家は、誰でも気軽に公平に利用できるように、若い世代の意見を聞きながら利用規定や管理体制を整え、利用者を増やす。

- （農改センター）利用規定の見直しをして利用者を増やす。過去に健康のために施設内を歩こうとして、管理人から禁止されるなど利用者にやさしくない。
- （農改センター）気軽に入れにくい雰囲気がある。
- （農改センター）施設は必ず予約が必要など、一般に開放されていない。限定された時期（第何曜日とか）や期間でもよいので誰でも使える時間があるとよい。
- （農改センター）土日や夜は施設に行っても、常連の利用者が独占しており、なかなか利用できない状況になっている。現利用者はできるだけ平日の日中に使うといった新しい住民への配慮が必要。

農改センターや憩の家を、若い世代も利用しやすい名称に変更する。誰でも自由に使えることをPRする。

- （農改センター）名称変更する。例えば若者にアピールできて、知ってもらえて気軽に使える、江南区福祉センターの名称「きらとぴあ」など。
- 農改センターは、存在や、どういう施設でどんなことが行われているのか住民全員に知られていない。

農改センターや憩の家には多世代が利用できる多目的な機能を集中させたい。その方がコストを抑えられるのではないかな。

- 農改センターへの機能集中と機能アップ。コミュニティ施設は、地区に1つとなっているので、大江山地区は農改センターに機能を集中する。その方がコストを抑えられるのではないかな。

子育て機能が不足しているので充実させる。子どもが遊ぶスペースや、保育相談、親同士が交流できる居場所と仕組みが必要だ。

- 子育て機能が地区に不足しているので充実させる。具体的には3つ①保育相談（週一など定期的でもよい）②子どもが遊ぶスペースを設置する③親同士の交流ができる場所と仕組み。
- 子どもから高齢者まで、安心して過ごせる街にしたい、子どもが増えてほしい、大江山で子どもたちが健やかに育ててほしいという未来像がある。今、大江山に欠けていることの一つとして、図書室・子育て支援・子どもの居場所が挙げられるので、農改センターにその機能を充実させたい。

生涯学習に関する情報発信を行い、活動の交流を促し、支援する公民館の機能が必要。利用者に意見をもらい、集いやすくしたい。

- 公民館活動を表（もっと力を入れる）に出して、利用者の団体・個人に意見をもらい大江山全体の人が集えるようにしたい。
- 活動団体（様々な団体があるが、公民館活動としての団体も含めて）の交流が必要。
- 生涯学習は公民館の機能（生涯学習に関して多世代へ広く情報発信して、活動を支援する）が生かせれば行える。
- 中学生や地域のいろいろな人が利用できる施設と運営にする。
- 公民館の活動や支援が知られていないのは、働きかけが少ないことが原因、

そこを変えていく必要がある。

農改センターに防災拠点としての機能も集約するのであれば、老朽化している建物を早急に建て替える必要があるのではないか。

- キッチンなどの設備があることから、防災拠点を設置する。
- 防災拠点など、複合施設としていろいろな機能を農改センターに集約するのであれば建物も老朽化（雨漏り、建物劣化など）しており、早急な建て替えしかない。

《その他》

- 自治会費は各地区で差があり、用途を明らかにする必要がある。新旧の住民間で、自治会に対する共通理解を育む対話が求められている。
- 新潟市は子どもの数を減らしたいのか増やしたいのか、方向性を明確にしてから議論した方がよいと思われる。
- 財政負担軽減よりも、法人税の負担率を減少し、儲かる企業を増やすのがよい。
- 新潟市立図書館や中央区役所は行きづらく、駐車場も狭い。
- 複数の除雪業者の除雪のやり方を工夫してほしい。
- 阿賀野川河川敷は補強工事中だが、大雨による法面の浸食が心配。大江山は周辺よりは海拔も高く、田んぼもあるので水害には強いと思われる。
- 他地区の公民館を見学して参考にしたい。
- 資料は言葉が難しく、説明されても理解できない。